

(別紙様式2)

## DIEPSS（薬原性錐体外路症状評価尺度）全項目評価用紙

患者：  
評価者：  
評価日： 年 月 日  
評価時間：～

コード	
0	= なし、正常
1	= ごく軽度、不確実
2	= 軽度
3	= 中等度
4	= 重度

適当なもの1つに丸をつける。

### 1 歩行 Gait

0 1 2 3 4

小刻みな遅い歩き方。速度の低下、歩幅の減少、上肢の振れの減少、前屈姿勢や前方突進現象の程度を評価する。

### 2 動作緩慢 Bradykinesia

0 1 2 3 4

動作がのろく乏しいこと。動作の開始または終了の遅延または困難。顔面の表情変化の乏しさ（仮面様顔貌）や単調で緩徐な話し方の程度も評価する。

### 3 流涎 Sialorrhea

0 1 2 3 4

唾液分泌過多。

### 4 筋強剛 Muscle rigidity

0 1 2 3 4

上肢の屈伸に対する抵抗。歯車現象、ろう屈現象、鉛管様強剛や手首の曲がり具合の程度も評価する。

### 5 振戦 Tremor

0 1 2 3 4

口部、手指、四肢、軀幹に認められる反復的、規則的（4～8 Hz）で、リズミカルな運動。

### 6 アカシジア Akathisia

0 1 2 3 4

静座不能に対する自覚；下肢のムズムズ感、ソワソワ感、絶えず動いていたいという衝動などの内的不穏症状とそれに関連した苦痛。運動亢進症状（身体の振り動かし、下肢の振り回し、足踏み、足の組み換え、ウロウロ歩きなど）についても評価する。

### 7 ジストニア Dystonia

0 1 2 3 4

筋緊張の異常な亢進によって引き起こされる症状。舌、頸部、四肢、軀幹などにみられる筋肉の捻転やつっぱり、持続的な異常ポジション。舌の突出捻転、斜頸、後頸、牙關緊急、眼球上転、ピサ症候群などを評価する。

### 8 ジスキネジア Dyskinesia

0 1 2 3 4

運動の異常に亢進した状態。顔面、口部、舌、頸、四肢、軀幹にみられる他覚的に無目的で不規則な不随意運動。舞踏病様運動、アテトーゼ様運動は含むが、振戦は評価しない。

### 9 概括重症度 Overall severity

0 1 2 3 4

錐体外路症状全体の重症度。